



都市から発信する森林づくりのエンターティナー 特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所

ヒノキ2,400本の植樹ツアー（2012年4月21日/長野県佐久市）
一見派手に見えるピンクのビブス（胸当て）は、初心者の多いツアーでの安全確保にも役立っています。ハードな作業内容ながらリピーター率は約8割。

どんぐり還し活動（2011年10月27日/長野県東御市）
2013年春に山火事跡地に植樹することを目標に、北御牧保育園の園児が毎日の散歩で拾ったどんぐりをポットや園の畑に蒔きました。



さまざまなアプローチで、森林と人を結びつきたいと語る代表理事 たけがまひでのぶ 所長の竹垣英信さん。

フォレスト サポーターズ



美しい森林づくり推進国民運動

特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所

森をささえよう

森と暮らそう

日本の国土のおよそ7割を占める森林は、重要な資源でありながら十分に活かされていないだけでなく、手入れ不足によって水源かん養機能の低下や土砂災害の発生などが懸念されています。こうした問題に取り組む森林ボランティア団体は現在およそ3000団体ほどあります。

「森のライフスタイル研究所」で活動のテーマとしているのは「すべての人と森林づくり」。森林づくりに「楽しさ」を加えることでより多くの人に森林を訪れてもらい、森林と人との出会いで新しい何かが生まれると考えています。

「森のライフスタイル研究所」は、「楽しさ」を通して平成15年から、都市住民と森林の出会いづくりを行っている団体。「すべての人と森林づくり」をテーマに環境保全活動を行い、平成21年4月にフォレスト・サポーターズに登録しました。ファッションなどの感性に訴えるアプローチを通し、都市の若者たちが森林を知り、訪れる機会づくりを行う「森のライフスタイル研究所」代表理事所長の竹垣英信さんに活動内容や展望などをうかがいました。

しかし、参加者の多くは50歳代以上で、都市で生活する20歳代、30歳代の若い人たちはほとんど参加していないのが現状です。内閣府の世論調査（平成23年12月実施）によれば、森林への親しみを感ずる割合は20歳代と30歳代が他の世代より低くなっています。ですが、農山村滞在型の余暇生活への関心度は逆に20歳代・30歳代の方が高くなっています。今後10年、20年と森林づくりを推し進めていくためには、こうした潜在的に森林に関心を持っている都市の若者に対して、森林に親しむ機会を作っていくことが重要です。



フォレスト・サポーターズ

4つのアクション 活動紹介

ロハスな夏のキャンプで下草刈りツアー
(2011年7月16~17日/長野県佐久市)
下草刈りをメインに、ダッチオープン講座や温泉、
テントでの寝泊まり等、さまざまな体験をした宿泊
型の活動。



森と洋服のプロジェクト情報発信(東京都渋谷区)
ファッション発信地・原宿で年2回行われるブランド合同
展で、出展ブランド、百貨店・小売店のバイヤー等に森と
洋服のプロジェクトをPR。



海岸林再生の植林6,000本ツアー (2012年2月25日・
4月27日/千葉県山武市)
東日本大震災の津波被害にあった千葉県九十九里浜保安林
にクロマツやトバラ、マサキ12,000本を植林しました。



森林整備で間伐された信州のカ
ラマツを粉碎・再資源化し、バイオ
マス技術で特殊成形したカプセルと
ブロックを発売。



今日からやろう! 森のための

4つのアクション



森にふれよう



木をつかおう

しかしながら、日本の森林が置かれている現状に対する問題意識は彼らにはありません。彼らには、すでに森林に関心を持っている人たちとは違った切り口からアプローチをしなくてはなりません。

そうしたアプローチのひとつが、「森のライフスタイル研究所」の行っている「森と洋服のプロジェクト」です。都内のアパレル専門店やファッションビルで販売される洋服にプロジェクトのラベルを付けることで、洋服を若者に森林への関心を持たせるためのメディアとして活用しています。また、店舗に対しても、売上の一部を寄附したり、森林ボランティア活動へ参加するよう呼びかけを行っています。

この他にも間伐材から作られる木質ペレットを燃料とするストーブの普及、古民家を1ヶ月間借りて農山村生活を体験する「フラクショナル・シェア」、間伐材を使って自分だけの箸を作る「マイ箸づくり」、親子で森林内のキャンプを楽しむ「秘密基地づくり」、株式会社シー・

ピー・トムズと共同で開発したカラマツの間伐材を使ったおもちゃ「カラマツブロック」の発売など、幅広い活動によって、都市住民と森林との結びつきを深くしていくための仕組みづくりを進めています。

また、活動拠点が都市というメリットを活かし、企業に対し、森林づくり活動を単なる企業の社会貢献(CSR)と考えるのではなく、社員の健康づくりや能力向上の手法として活用してはどうかと提案しています。チームワークが必要とされる森林づくり活動には、参加者の間に協調性を育て、一体感を高める効果があることを訴え、これまでのCSR活動からさらに進化した取組になつてほしいと考えています。

事業を開始して4年目を迎える今年は、活動に参加した若い人たちが森林での活動体験にとどまらず、都市生活においても国産材製品を積極的に購入するなど、日常においても森林を支える応援者に育っていくことを期待しています。